

助産師教育

NEWS LETTER



公益社団法人
全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education
No.94 2022. 10. 1

助産師教育よ、粘り強くあれ！

公益社団法人全国助産師教育協議会 会長
神奈川県立保健福祉大学 村上 明 美



皆さまにおかれましては、いつも公益社団法人全国助産師教育協議会の活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃より助産師教育の質向上を目指してご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

助産師教育が新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、すでに3年が経過しました。次々に変異株が出現し、収束の兆しが見えかけたかと思うと再び新たな波に襲われ、混沌とした状況が続いています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のために助産学実習が中止や延期となり、学内実習に切り替えた学校も数多くありました。中には臨地で全く分娩介助をせずに助産師教育を終えた学生もありました。しかしながら2021年度は、多くの学校が臨地で実習できるように施設と粘り強く交渉し、可能な限り臨地での実習を実施していただいたとうかがっております。本当にご苦勞様でした。

さて、2022年6月18・19日に開催されました本協議会の第13回定時社員総会では、教育検討委員会より、2019～2021年度の調査に基づき「助産師教育卒業（修了）時の到達度自己評価の推移からみるコロナ禍の影響」が報告されました。2019年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けておらず、2020年度は影響を受けた最初の年度、2021年度は影響を受けて2年目の年度となります。3年間を比較した報告の詳細については、全国助産師教育協議会のHPに掲載されていますのでご参照ください。その中で注目すべき結果2点について、ここで紹介させていただきます。

まず1点目は、学生の到達度自己評価では、2020年度が到達度自己評価の最低値となる項目が約8割と非常に多く、コロナ禍の影響が強く表れていました。しかしながら、マタニティケアに関する項目においてはその影響は少なく、各学校の積極的な「学びをとめない取り組み」が功を奏したのではないかと考えられます。一方で、マタニティケア以外の項目においては、課題が残されました。

2点目は、「助産師のアイデンティティの形成」において、2019年度から2021年度にかけて年々到達度が下降していました。臨地での妊産婦との直接的な関わりが、助産師のアイデンティティ形成において重要な要素であると考えられますが、コロナ禍で助産学を担当する教員が、学生に対してアイデンティティ形成における教育的な関わりができていたのかどうか、振り返ってみる必要があるように思います。

現在は、助産師教育にICTを活用した遠隔授業（講義・演習・実習）や、DX機器を用いたシミュレーション教育等、新たな教育方法が急速に導入されつつあります。コロナ禍にあって助産師教育が大きな変革期を迎えていることを実感します。

少子化が加速している時代に、どんな高度な教育方法が開発されようと助産学は実践の学問であるからこそ、全国助産師教育協議会は「助産師教育において、臨地でなければ修得できない能力と臨地でなくても修得できる能力」を明らかにし、粘り強く臨地での実習を可能する努力を惜しんではいけないと考えています。

扉.....	1
教育・活動報告	2
ニュース	4
わかばの部屋	5

竹内美恵子先生を偲んで	6
全助協からのお知らせ	8
トピック	9
理事会報告	10

第47回 全国助産師教育協議会 全国研修会 報告書

テーマ「新時代の助産師教育－ハイリスクに対応できる助産師の育成－」

中部地区

岐阜医療科学大学可児キャンパス 助産学専攻科 唐 沢 泉

第47回全国研修会は、COVID-19感染症拡大により、昨年同様WEB開催とし、10日間のオンデマンド研修としました。研修内容は2022年4月からの新カリキュラムに求められる助産師の「実践能力と卒業時の到達目標」、「主な改正点」を考慮し、助産教員ならびに臨地指導者が助産師学生の主体性と助産実践能力を高めるための教育のありかたを学ぶことができる講演を企画しました。

1. 研修内容

講演テーマ（講演時間）		講 師
講演1	学生の能動的な学びをサポートする教育者のありかた（90分）	藤崎和彦：東海国立大学機構 岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
講演2	産むということ～女性の主体性を引き出す助産師の関わり～（60分）	ドーリング景子：京都大学医学研究科 人間健康科学系専攻先端広域看護科学講座 助教
講演3	産科エマージェンシー臨床推論の基礎（60分）	望月礼子：鹿児島大学病院 救命救急センター
講演4	男性不妊について（90分）	今井伸：聖隷浜松病院リプロダクションセンター長・総合性治療科部長
講演5	これからの助産師に求められること（90分）	井本寛子：公益社団法人日本看護協会常任理事

2. 研修受講状況 申込数：会員384人、非会員20人、学生103人（助産師免許保有者9人）。

全体受講者数の平均：申込数の46% 講演受講者数の平均：申込数の55.2%

講演	申込数	受講者数	アンケート回答数	修了証 発行数	受講証明 書発行数
会長挨拶	507	267 (52.7%)			
講演1	507	248 (48.9%)	229 (92.3%)	203	
講演2	507	254 (50.0%)	219 (86.2%)		254
講演3	507	234 (46.2%)	206 (88.0%)		234
講演4	507	204 (40.2%)	175 (85.8%)		204
講演5	507	193 (38.1%)	171 (88.6%)	166	

講演1と講演5は、日本助産評価機構申請の研修。

3. アンケート結果 内容「良い」の平均約80%、時間「適切」80%以上は、1時間の研修。

講演テーマ		内容：良い	学習目的：達成できた	満足度	時間：適切
講演1	学生の能動的な学びをサポートする教育者のありかた（n=229）	80.3%	69.9%	69.4%	57.6%
講演2	産むということ～女性の主体性を引き出す助産師の関わり～（n=219）	85.4%	75.8%	77.2%	85.4%
講演3	産科エマージェンシー臨床推論の基礎（n=206）	82.0%	74.8%	76.2%	85.4%
講演4	男性不妊について（n=175）	81.0%	74.9%	78.3%	73.1%
講演5	これからの助産師に求められること（n=171）	69.0%	62.0%	55.6%	55.6%

講演のすべてにおいて多くの学びがあり、今後の助産師教育に活用でき、研修成果を感じました。しかし、講演受講者数の平均が申込数の55%であり、会費（今回は無料）、研修時間・配信期間に検討の余地があると考えています。

種々課題は残りますが、講演を快諾してくださった講師の先生方、担当地区会員校の皆様、参加者の皆様、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

2022年度 第13回（通算58回） 公益社団法人 全国助産師教育協議会定時社員総会報告

2021－2022年度 全国助産師教育協議会副会長
徳島大学大学院 葉久真理

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は、増加と減少を繰り返しながらも、ようやく行動制限が緩和された矢先、各地で過去最多となる感染が相次ぎ、第7波が猛威を振っています。医療／助産教育の場では、引き続き感染症対策の徹底が求められ、コロナ禍前の状況に戻るにはまだまだ時間がかかるものと思われます。

そのような中、2022年6月18日（土）・19日（日）、第13回（通算58回）定時社員総会および研修会を、オンライン開催（全国助産師教育協議会会議室：東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号）することができました。ご協力ありがとうございました。以下、総会、研修会の概要を報告いたします。

6月18日（土）の総会では、議長には正岡経子氏（札幌医科大学）、議事録署名人には西村明子氏（兵庫医科大学）、宮下ルリ子氏（県立広島大学）が選任されました。昨年度同様、議決権行使書面による開催とし、正会員総数338名中283名から議決権行使書が提出され、定款第30条に基づき総会が成立していることを確認し開催いたしました。

まず、村上明美会長から、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改定による新たなカリキュラムの開始に向けて準備いただいたことへの感謝が述べられました。不妊治療の保険適応や育児介護休業法の段階的改正、子ども家庭庁設置関連法案の成立など、昨今の母子や女性に対する国の積極的な取り組みのもと、今後さらに深刻化複雑化が予測される超少子社会において、助産師にはこれまで以上に専門性の発揮が期待される中、助産師教育においては有能な助産師の育成が一層求められており、将来ビジョン2021の実現に向けて、持続可能な質の高い助産師教育を提供できるように継続した事業展開に向けてご協力いただきたいとの挨拶がありました。

続いて2021年度の事業報告と収支決算および監査報告があり、この2つの決議事項について承認されました。地区別打ち合わせ会の後、教育課程別検討会では、「新カリにおける乳児4か月程度までの母子のアセスメント能力の育成 一地域母子保健2単位の学びと臨地での学びに向けての工夫―」につい

て、各校のこれまでのそしてこれからの新たな取り組みを伺い、新カリを展開する上での示唆を得ることができました。最後に、組織強化委員会より、「[助産師教員キャリアラダー]に基づいた助産学担当教員の教育力保証のためのキャリアラダー認証制度の発足に向けて」の説明があり、今後アンケート調査を実施することが報告されました。

6月19日（日）の研修会では、307名の参加のもと、文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官渡邊美和様から、「[看護系大学の現状と課題～助産師教育の動向を含めて～]」と題してご講演いただきました。助産師教育における実習（特に分娩介助数）実態データでは、各教育機関共にコロナ禍においてこれまで以上に手をかけ目をかけて実習／演習が行われたことが推察されました。厚生労働省医政局看護課課長補佐初村恵様からは、「[看護行政の動向と助産師教育への期待]」、厚生労働省子ども家庭局母子保健課母子保健指導専門官内田愛子様からは「[母子保健の動向と助産師の役割]」についてご講演いただきました。続いて、教育検討委員会蛸崎奈津子理事から、「[助産師教育卒業（修了）時の到達度自己評価の推移からみるコロナ禍の影響]」について報告されました。また、日本助産評価機構江藤宏美理事から、「[助産教育における分野別評価の社会的必要性について]」、医歯薬学教育と助産学教育の質保証への取り組みの相違が示され、第3者による評価の必要性についてご講演いただきました。最後に、公益社団法人日本看護協会福井トシ子会長から「社会の変革に向けた助産師基礎教育のあり方」と題して、超少子高齢社会における妊産婦並びに周産期医療・母子保健並びに女性を取り巻く現状と課題、そして助産師を取り巻く現状と課題から、助産師教育は今後どうあるべきかを考えるための示唆をいただきました。最後に、渡邊浩子副会長が閉会の挨拶を述べ終了いたしました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

本年度は、理事選挙の年となります。会員の皆様には引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

カリキュラム改正について ―地域母子保健の取り組み

神戸市看護大学

高田昌代

2019年（令和元年）10月に厚生労働省が発表した看護基礎教育検討会報告書の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正において、地域母子保健の1単位増とした主な改正点は、「産後うつ等の周産期におけるメンタルヘルスや虐待予防等への支援として、他職種と連携・協働し、地域における子育て世代を包括的に支援する能力が求められていることから、産後4か月程度までの母子のアセスメントを行う能力を強化することが重要であるため」である。この改正点は、近年の児童虐待相談件数の増加や産後女性の自殺数から、地域母子保健の強化が改正点であることは総論として異論はないところである。では、実際の助産師教育として各論に落とし込む際に、考えなければならない視点を3つ挙げる。

まずは、産後4か月程度までの母子のアセスメントを行う能力を学生が獲得するには、指導者は助産師であることが望ましいことである。

産後4か月程度までの母子のアセスメントについては、保健師の業務とも重複するところではあるが、対象者が同じでも専門職によって観る視点は違う。助産師は、その母子の妊娠期から分娩期・産褥早期の延長線上に「今」を観ている。必要時、母親の幼少期、思春期からを観ている時もある。また、育児期に最もつまづきやすい授乳のケアを、乳房ケアも含めて行っているところがケアの特徴である。そのため、地域で活動する助産師や助産師である教

員が指導にあたるのが望ましいことが考えられる。

2つ目は、産後4か月程度までの母子が対象であり、4か月児の発育発達と親と子のきずなや母親役割習得過程のアセスメントの必要性である。

改正点の理由からみれば、養育方法の改善等による育児負担軽減や仲間づくりなど、子ども虐待支援の層構造¹⁾でいう1.5～2次予防（早期発見、早期対応）と、ローリスクの方々を対象とした1次予防（発生予防）のためのアセスメントであるから、母子関係、時には親子関係がアセスメントできる教育の場が必要となる。地域での育児支援や産後ケア、家庭訪問など多様な展開が期待できる。

3つ目は、生後4か月まで、切れ目のないケアの経験が望ましいことである。

妊娠・出産を通じた個別的で手厚い継続ケアを女性に行うことで、産後4か月程度までの支援内容や方向性は変わる。継続事例等を経験した学生は、母子の反応や変化を肌で理解し、自分の言葉で説明できるようになる。地域での助産ケアが求められる時代に活躍する助産師学生に、継続ケアが経験できる機会をつくるのが教育者に課せられた役割だと考える。

1) 津崎哲郎他編：児童虐待はいま、ミネルヴァ書房、2008



私たちは、働くあなたを
「眠り」で支えます。

東洋羽毛について
詳しくはこちらをご覧ください



 **TUK 東洋羽毛工業株式会社** 〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-26-5 お客様相談室  0120-410840

助産師教育に携わって

帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科

母性看護学・助産学 助教

佐藤 恵美

私が勤務する帝京平成大学は、東京都内では数校の学部4年間のなかで助産師課程がある大学です。キャンパスは都心に位置し、1学年10名の助産師課程の学生がいます。1年次での選抜試験を経て、2年次後期から助産学の授業が始まります。助産師課程の学生は、夕方に残って助産学の講義を受けたり、4年生の夏休みに夏休み返上で分娩介助実習に臨むなかなかハードなカリキュラムです。

私は、助産師教育に携わってまだ日は浅いですが、ご縁があり助産師教育に関わらせていただくようになりました。自分が学生だった頃や臨床で働いていた時には、まさか助産師教育に携わるようになるとは思っていませんでした。臨床での新人教育や臨床実習指導とは違って教員は新たな経験ですが、助産師としての幅が広がるとも思い、新たな一步を踏み出しました。“教える”と気負うことなく、学生と一緒に考え学ぶ姿勢で、学生に身近な存在として助産の思いを伝える、妊産褥婦さんへの関わり・大事に思っていることを伝えていきたいと思っています。そのようななかで学生の助産観が築かれてい

けばいいなと思っています。

現在分娩介助実習中ですが、着任当初は自分に助産実習指導が務まるのか、実習目標を学生が達成できるようにサポートできるのか不安に感じていました。今でも緊張しながら実習先に行く日々です。助産師は観察力、判断力、実践力などさまざまな力が必要となってきます。学生が理想とする助産師像を描けるよう、近付けるように知識・技術の獲得ができるよう一緒にサポートしていきたいと思っています。

演習や実習指導で学生と関わっていると、説明したり学生からの質問に答える際に、根拠や理論をもって伝えられているか、臨床で得た知識・臨床の技といった臨床の経験からの答えになっていないかと振り返ることがあります。学生が理解していくには根拠や理論が大切と考えるので、そういった説明や返答の仕方を心がけたいと思っています。

助産師としての経験も十分ではありませんが、自分自身も学生とともに成長できるよう自己研鑽することを忘れず励んでいきたいと思っています。

各種安全性
テスト済

＼全国250以上の助産施設で沐浴指導に導入いただいています／

新生児から使える低刺激スキンケア

ーママ & キッズ ベビーラインー

無香料 無着色 低刺激 弱酸性

パラベン、アルコール（エタノール）、石油系界面活性剤・鉱物油無添加
・皮膚アレルギーテスト済^{※1}
・新生児・乳幼児連用テスト済^{※2}
・食物アレルギーテスト済^{※1}・目刺激性テスト済^{※2}

※1 すべての方にアレルギーが起こらないというわけではありません
※2 すべての方に合うというわけではありません

アトピー性皮膚炎や肌トラブルの予防に、生まれてすぐからのスキンケアが注目されています。ママ & キッズのベビースキンケアは、小児皮膚科医、小児科医、産婦人科医、助産師協力のもと開発。新生児から使える安全性を確認した低刺激処方、赤ちゃんの肌をすこやかに育みます。



全国250以上の
沐浴指導でも
導入中

Mama & Kids
ベビーライン（洗浄・保湿）

院内使用製品は
特別価格でご提供

院内での製品のご使用については、
右記までご連絡をお願いいたします。

株式会社ナチュラルサイエンス（担当：堤／田中）
TEL：03-5665-3866 FAX：03-5665-2322

● natural science 株式会社ナチュラルサイエンス 〒136-0073 東京都江東区北砂 3-4-27 www.natural-s.jp/

竹内美恵子先生を偲んで

助産師教育研修研究センター

平澤 美恵子



竹内美恵子先生

この度の竹内先生の訃報をお伺いしてもまだ信じられない心地であります。日にちが過ぎると共に、全国助産師教育協議会（以下、全助協）で一緒に過ごした頃の先生の活動が走馬灯のように思い巡らされました。先生は20代後半から助産婦（師）教育に携わり、専門職としての助産師教育の進歩・発展にご尽力下さいました。つねに助産師のコアになる哲学と、時代の推移の中で変化し発展する助産師の教育制度や業務の在り方を追求され、全助協の基礎固めに時間を惜しまず貢献して下さいました。すなわち、先生は全助協の発足当時からのあゆみ（昭和40（1965）年に至るまで）を熟知しており、そのあゆみを時代の変化の中で、いかに活かし全助協として発展させるかを考えておりました。昭和30（1955）年に厚生省・文部省により招集された「助産婦学校・養成所長会議」（当時12校の学校長と教務主任が出席）で「助産婦学校における教育をどのように充実させ、改善を図っていくのか」のテーマで討議がなされ、その後、国立大学医学部付属助産婦学校教務主任連絡会が組織化され、昭和38（1963）年まで教育に関する諸問題が検討されました。昭和40（1965）年に全国助産師学校長会議（全国助産師教育協議会の前身）が発足すると、創成期（昭和30（1955）年～昭和39（1964）年）の頃の全助協の組織化を受けて、その後の教育の改革、改善に向けた活動を鋭意進めて下さいました。具体的な教育活動では、助産婦教育制度委員会・小委員会委員として「助産婦教育到達目標」・「助産婦教育制度試案」を昭和59（1984）年に報告し、教育制度委員会修士課程検討グループの委員では「大学院修士課程での助産学カリキュラムの作成」を平成12（2000）年に報告されました。これらの報告内容が今日の助産師教育カリキュラムの根幹をなしております。

また、全助協の経営基盤が軟弱な頃、当時の徳島

大学助産婦学校青野敏博校長（全助協理事）の教育協議会研修会委員長のもと、葉久真理助手と共に平成3（1991）年と、平成4（1992）年に教育協議会研修会を企画し運営して下さいました。平成元（1989）年のカリキュラム改正に伴い、平成3（1991）年には、助産診断の考え方、未熟児医療の進歩、アクティブバース、ソフロロジック式分娩教育、ザイールの助産婦など関心事の高いテーマを設定されました。平成4（1992）年には、助産技術学教育への私案、助産婦のための超音波診断テクニック、妊産婦の体とヨガ体操、母乳哺育、救え地球の子どもたちなど、時代を先取りしたテーマで開催されました。平成3（1991）年と平成4（1992）年の研修会には助産婦教育関係者1,400名が参加し、青野研修会委員長のご配慮で収益2,000万円を全助協本部に収めて下さいました。この基金が、今日の公益社団法人全国助産師教育協議会となる資金となりました。先生は全助協での教育活動を推進する傍ら、第10回日本助産学会学術集会を開催し学会長として責務を果たされました。またICM国際学会や助産師業界全体に関わって、国際的な視野から助産師教育のあり様を求められました。平成27（2015）年に開催された全助協創立50周年記念時には感謝状が贈呈されました。先生のお人柄は温和で対人関係を大切にし、自己の意見を持ちつつ関わる方の意見を尊重し、場の意見を集約していく能力に優れており、人間としての魅力にあふれた方でした。

ある新聞記事（朝日新聞、2022年7月）に大切な人を見送ったときの言葉として「ありがとう」は死者と生者をつなぐ言葉であると記載されておりました。全助協という組織の成り立ちから今日まで、時代性を鑑みながら助産師教育を推進して下さいました先生に「ありがとう」の言葉で感謝を申し上げ、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（助産婦、助産師の名称はその年代に使用されたままを用いました。）

＜竹内美恵子先生の御経歴＞

竹内美恵子先生は、昭和16（1941）年2月13日に徳島県に生まれ、昭和38（1963）年3月徳島大学医学部附属助産婦学校を卒業後、徳島大学医学部附属病院で助産師として勤務の後、助産師教育に配置転換となり、昭和43（1968）年4月より38年間助産師教育に邁進されました。昭和43（1968）年4月徳島大学医学部附属助産婦学校講師、平成3（1991）年4月徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻助教授を経て、平成8（1996）年4月に教授、平成13（2001）年10月からは徳島大学医学部保健学科教授に就任され、総勢764名の助産師を世に送り出しました。

全国助産師教育協議会の活動においては、理事として、教育制度委員並びに委員長、医療技術短期大学設置に伴う在り方委員会委員などをつとめられ、助産師教育のあるべき姿を目指して、教育の改革・改善に向けた活動に昼夜を問わず取組まれました。

妊婦外診モデル

MC-002・MC-002W40

妊娠週数（20週、32週、40週）に応じた胎児をSPに装着し、妊娠検査診察時の場面を自由に設定することができます。

模擬羊水により、腹部触診時のリアルな感触を得ることができます。胎児は、腹部触診の際にガイドとなる児背、児頭、肩峰および股部、大転子の触診ができ、様々な体位、体向にセットすることが可能です。また、胎児心音をダウンロードして聴診の演習もできます。

【EmシーピーYouTubeチャンネル】

カタログではわかりづらい製品の質感、活用例など紹介しております。



模擬妊婦さん（SP）に早変わり！
お腹の赤ちゃんを感じながら妊婦体験が可能です。
また、妊婦さんとのコミュニケーションを想定してリアルな演習ができます。

Medical Craft
and
Prosthetics

株式会社エムシーピー

〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-64-5 サイビルビル9階
TEL:03-6905-6571 FAX:03-6905-6572
URL:www.medicalcraftpro.com E-mail: info@medicalcraftpro.com

助産師のための 妊娠糖尿病ケア 実践ガイド

福井トシ子・井本寛子 編著

福井トシ子・井本寛子 編著

B5判 176頁 定価3,520円(本体3,200円+税10%)

ISBN978-4-263-23732-8

こちらを読み取ると
詳しい情報が
ご覧いただけます



妊婦の高齢化により増加傾向にある妊娠糖尿病のケアに必要な基礎知識を網羅した実践ガイド。妊娠初期から退院後まで、妊娠期別の生理的・心理的特徴とケアのポイントがわかる。アドバンス助産師®や取得を目指す方は必見！

【主な目次】

- chapter 1 妊娠糖尿病ケアに必要な基礎知識
- chapter 2 妊娠糖尿病妊産婦と新生児のケア
- chapter 3 事例から学ぶ妊娠糖尿病ケア



医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

https://www.ishiyaku.co.jp/

分娩介助モデル「ひろこ」

LM-114 標準価格 ¥550,000 (税別)

側臥位、四つん這いを含む正常分娩時の介助演習が可能です。会陰保護から、胎児・胎盤の観察など一連の演習ができます。下肢があるため、臨床に近い状態での演習ができます。外陰部は旧製品のもの（内診モデル外陰部Ⅱ型、分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型、裂傷縫合モデル外陰部）をそのまま使用することが可能です。

株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)393-5115

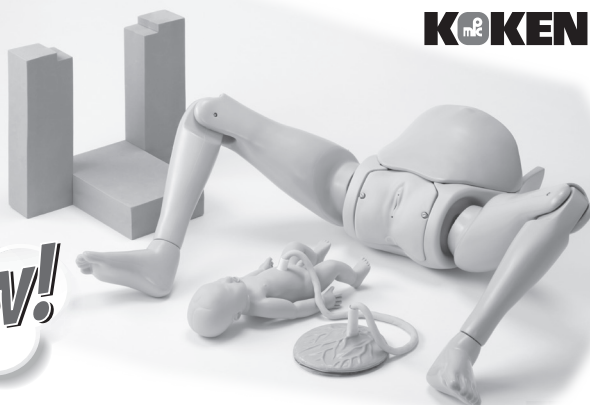
東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580

大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp

© 2021 KOKEN CO., LTD.

New!



第14回（通算59回）公益社団法人全国助産師教育協議会 定時社員総会開催のお知らせ

日程：2023年6月17日（土）～18日（日）

方法：オンライン開催

担当：オンライン開催の為、担当校はありません。

事務対応 全国助産師教育協議会事務局

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号

T E L 03-6384-2075

F A X 03-6384-2076（火・金 事務局在室）

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

U R L <http://www.zenjomid.org/>

*詳細は、追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

第48回全国助産師教育協議会全国研修会のお知らせ

日程：2023年2月25日（土）～3月12日（日） 16日間

方法：WEB開催（オンデマンド配信）

テーマ：DX社会での教育の未来と助産ケア

担当地区・担当校：近畿地区

奈良県立医科大学大学院（五十嵐稔子）

参加費：1,000円（会員）、3,000円（非会員）

内容等、詳細は追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

<担当校から一言メッセージ>

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること（経済産業省：DX推進ガイドライン、2018）とされています。新型コロナウイルスの感染拡大により、人との接触をできる限り減らしていく中で、助産師教育・助産実践においても、DX化が進んできました。

今回は「DX社会での教育の未来と助産ケア」をテーマに、IT技術などを活用したコロナ禍での助産実践や、教育について学びたいと思います。また、DX化とともに周産期医療が高度化・複雑化する中で、助産師の役割やケアの必要性も改めて考える機会になればと思います。

今年度もオンデマンドになり、皆様と対面でお会いできないのは寂しいですが、ぜひご参加くださいましよう、よろしくお願いいたします。

◆医学書院 関連書籍のご案内

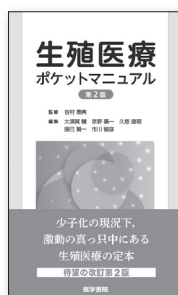
QRコードから書籍の詳細がご覧いただけます

◎少子化の現況下、激動の真只中にある生殖医療の定本、待望の第2版

生殖医療 ポケットマニュアル 第2版

監修 吉村泰典
編集 大須賀 穰・京野廣一・
久慈直昭・辰巳賢一・
市川智彦

●B6変型 2022年 頁520
定価：5,500円（税込）
[ISBN978-4-260-04868-2]



◎妊婦健診でチェックすべき内容を週数別に解説。
ハイリスク妊婦の管理や保健指導も網羅

週数別 妊婦健診 マニュアル 第2版

編集 藤井知行

●B5 2021年 頁440
定価：9,900円（税込）
[ISBN978-4-260-04794-4]



医学書院 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 <https://www.igaku-shoin.co.jp> [販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

妊産婦のメンタルヘルス：ウィズコロナ、アフターコロナ時代の支援

兵庫医科大学精神科神経科学講座

清 野 仁 美

新型コロナウイルスのパンデミック下において、元来、真面目で同調性の高い日本人のマスク着用率は高く、外出や会食の自粛など自主的な行動変容がみられました。人々の不安は感染者の自己責任論を生み、感染者の家族、学校、勤務先、居住地域にまで差別、偏見がおよび、風評被害に至ることもありました。自分が相手を感染させてしまうのではなかという恐怖や、いつどこで誰から感染させられるかわからないという疑心暗鬼が長く続き、人と人のつながりは希薄になっていきました。特にコロナ禍で妊娠、出産を迎えた妊産婦は、通常よりもさらに警戒心が高まり、本来は人とのつながりの中で温かく支えられるべき重要な周産期を、物理的にも心理的にも孤立したまま過ごすことになりました。ソーシャルサポートが得られない妊産婦は、気が張り詰めたまま慢性的なストレスを抱え、うつや不安を呈する傾向がみられました。一方、コロナ禍ではリモートワークや休園、休校、感染による隔離措置などにより家庭内で過ごす時間が増え、パートナーや子どもとの関係性が密接になり、パートナー間暴力や、虐待の相談件数も増えました。さらに経済的不況を受けて、非正規雇用労働者の女性や若者の失業率が高まりました。このような社会的問題も妊産婦にうつや不安をもたらす要因になっていました。気持ちの落ち込みや不安、イライラを自分で何とか対処しようと、飲酒、喫煙、過食、嘔吐、自傷、長時間にわたるSNSやゲームへの没頭など適切ではない対処行動を繰り返し、それにより家事や育児に支障をきたすほどの依存傾向がみられることもあります。

本来、周産期は様々な困難を経験することが多い時期です。そのため、当事者同士の交流（ピアサポート）や医療・保健・児童福祉の専門職からの支援体制が多く存在し、当事者からも支援が受け入れられやすい傾向にあります。当事者同士は苦労や喜びを分かち合うことができ、つながりも強固になっていきます。妊産婦が困ったり、不安になった時にそのことを素直に話せて頼れる人、一緒に困ってくれる人がいることで、不安を抱えながらも妊娠・出産・育児に向き合っていく自らの力を回復させることが出来ます。このように妊産婦のレジリエンスは個人の資質だけで規定されるものではなく、つながりの中の相互作用によって引き出されるのです。

直接的な対面コミュニケーションは、時間・距離・

場所などの物理的制限があるものの、言葉だけでなく姿勢、表情、声のトーン、間合いなど非言語的情報も介して相手とコミュニケーションを取り、安定した深い信頼関係を構築することが出来ます。それにより妊産婦はより大きな安心感、安全感が得られます。メンタルヘルスの不調を抱える妊産婦は、しばしば対面交流に対する億劫さや恐怖がみられ回避する傾向がありますが、時間がかかっても対面交流で信頼に基づく関係性が構築できれば、長期的なメンタルヘルスの安定の基盤になることでしょう。

コロナ禍では、日常的にSNSなどのオンラインでの交流が行われました。SNSは物理的距離を問わず同じ立場や境遇の人、自分のニーズを満たしてくれる相手とコミュニケーションを取ることができ、自己開示に対して即時的に共感や承認が得られるため、孤立する妊産婦にとっては、常に人とつながっている、共感してもらえんという安心感や、自分が他者から認められるという満足感をもたらしてくれます。しかしながら、反応を過剰に意識したり、相手と比較したり、表面的で一面的なコミュニケーションにとどまる傾向もみられます。匿名性の高いSNSでは日常で抑圧されているネガティブな感情が表出されやすく、相手の反応が見えないまま言動がエスカレートしたり、逆に相手の感情の発散対象になることもあるでしょう。文面を通したやりとりが主であるため、非言語的コミュニケーションを介した情報が得られず、メンタルヘルスに不調を抱える妊産婦などは、相手の気持ちを考えすぎてしまい、抑うつや不安をさらに助長させることもあります。

ウィズコロナ、アフターコロナ時代の支援では、従来の対面コミュニケーションと、即応的で利便性の高いSNSなどオンラインを介したコミュニケーションそれぞれの利点を生かしながら活用していくことが求められます。広く一般の妊産婦に向けた教育、指導、予防、セルフケア、当事者同士のつながりにはSNSなどオンラインによるコミュニケーションが有用であると言えます。社会的リスク要因のある、あるいはメンタルヘルスの不調を抱えている妊産婦には対面でのコミュニケーションを行い、より深い信頼関係を築いて個々に応じた支援を行うことが望ましいでしょう。感染が収束しつつある今、社会的に孤立した妊産婦と支援者がつながり、レジリエンスを引き出していくことが求められています。

公益社団法人 全国助産師教育協議会

2021年度 第4回理事会次第

日 時：2021年7月11日（日）13：00～15：15
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第2回理事会議事録（案）について
 - ②2021年第12回社員総会議事録（案）承認
 - 第3回理事会議事録（案）承認について
 - ③個人会員入会
 - 2) 会計
 - ①令和3年の予算に計上した研修事業資金の研修内容と使用期限について
 - ②遊休財産の使途について
 - 3) 将来構想委員会
 - ①将来構想委員会委員の承認
 - 4) 教育検討委員会（推進・評価）
 - ③教育検討委員会委員の承認
 - 5) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会委員の承認
 - 6) 組織強化委員会（国内・国外）
 - ①2021年度組織強化（国内・国外）委員会の活動方針
 - ②組織強化委員会委員の承認
 - 7) 広報・社会貢献委員会
 - ①・Nursing Now キャンペーン終了後の活動
 - ・Nursing Now ニッポン宣言の学生への継承
 - 日本看護学会での学生交流集会企画
 - ・ニュースレター内容確認
 - ・日本助産学会との協賛：学生交流集会資料
 - ②広報・社会貢献委員会委員の承認
 - 8) 助産師教育研究研修センター運営委員会
 - ①助産師教育研究研修センター運営委員会委員承認
 - 9) CLoCMiP レベルⅢ「教員」の更新要件
 - ①アドバンス助産師更新要件研修承認
- III 報告事項
 - 1) 助産師教育研究研修センター委員会
 - ①本年度の計画方針
- IV その他
 - 1) 理事会・地区長会の年間スケジュール案
 - 2) 地区活動について

2021年度 第5回理事会次第

日 時：2021年9月5日（日）13：00～15：25
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第4回理事会議事録（案）
 - ②個人会員入会
 - ③助産実践能力推進協議会広報委員の推薦
 - 2) 会計（入山理事）
 - ①研修会のアルバイト（臨時雇賃金）等の時給
 - ②合併した広報・社会貢献委員会と組織強化委員会（国内・国外）の予算
 - 3) 教育検討委員会（推進・評価）
 - ①学生対象調査スケジュール（案）

- ②カリキュラムモデル作成の工程（案）
- ③カリキュラムモデル作成スケジュール（案）

III 報告事項

- 1) 組織強化委員会（国内・国外）
 - ①第1回組織強化委員会（国外）議事録
- 2) 広報・社会貢献委員会
 - ①社会貢献活動計画
 - 「Nursing Now」キャンペーン 事後活動
 - ②広報活動について
 - 「NEWS LETTER No.93」校正段階
- 3) 助産師教育研究研修センター委員会
 - ①第3回運営委員会議事録
 - ②第4回運営委員会議事録
 - ③メール審議議事録
- 4) 助産師教育研究研修センター委員会
 - ①教育研究センター、研修の進捗状況

IV その他

- 1) 庶務・総務関係
 - ①2021年度総括担当地区長決定
 - ②令和4年度自民党看護問題小委員会要望
 - ③メール理事会
- 2) 会計
 - ①研修事業資金口座について
 - ②遊休財産事業計画
- 3) 助産師教育研究研修センター委員会
 - ①全助協教育に関する講師謝金について
 - （外部講師・内部講師）

2021年度 第6回理事会次第

日 時：2021年10月10日（日）13：00～16：35
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第5回理事会議事録（案）
 - ②個人会員入会
 - ③令和3年（2021年）各省庁要望書について
 - 2) 会計
 - ①謝金、アルバイト等の時給案
 - ②遊休財産使用計画案（2021年度～2022年度）
 - 3) 助産師教育研究研修センター
 - ①令和3年度研修事業資金の使用計画
 - ②講師等謝金
 - ③保健師助産師看護師実習指導者講習会規定改訂
 - 4) 組織強化委員会（国内・国外）
 - ①賛助会員企業リスト案について
 - ②国際交流会について
 - 5) 村上会長より
 - ①自民党看護問題対策議員連盟総会提出の要望書に対する議員からの依頼について
 - ・令和2年度卒業生/修了生の臨床での課題
 - ・助産師養成所におけるOSCEの実施状況の情報提供
 - ②日本助産学会よりICMからの“日本の助産師教育プログラムの提供”依頼について
- III 報告事項
 - 1) 助産師教育研究研修センター委員会
 - ①助産師教育研究研修センター運営委員会議事録
 - 2) 教育検討委員会（推進・評価）
 - ①第36回日本助産学会学術集会 一般演題発表抄録
 - 3) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会活動報告について
 - 4) 将来構想委員会
 - ①将来構想委員会報告について

- 5) 組織強化委員会（国内・国外）
①国内活動の助産師教員キャリアラダー承認評価制度に向けたニーズ調査について

IV その他

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会
①研究研修センターの教育の進捗状況

2021年度 第7回理事会次第

日 時：2021年11月28日（日）13：00～16：00
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 庶務・総務関係
①第6回理事会議事録（案）
②第14回メール理事会（案）
第15回メール理事会（案）
③個人会員入会
④令和3年（2021年）各省庁要望書
⑤地区長会の開催
2) 会計
①事務員とアルバイトの時給
3) 助産師教育研究研修センター
①令和3年度研修事業資金の検討
（e-ラーニングシステム構築費・保守費・著作権校閲費）
②ファシリテーター謝金の検討
4) 広報・社会貢献委員会
①HP掲載内容変更について（全体）
5) 組織強化委員会（国内・国外）
①助産師教育キャリアラダー認証制度構築に向けた計画案について

III 報告事項

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会
①助産師教育研修研究センター運営委員会議事録
2) 組織強化委員会（国内・国外）
①2021年11月27日開催の国際交流研修会
3) 広報・社会貢献委員会
①広報・社会貢献委員会活動報告
4) 将来構想委員会
①将来構想委員会活動報告
5) 組織強化委員会（国内・国外）
①2021年11月27日開催の国際交流研修会について
6) 助産師教育研修研究センター委員会
①研究研修センターの教育の進捗状況について

IV その他

- 1) 謝金等の時給について

2021年度 第8回理事会次第

日 時：2022年1月8日（土）14：00～16：00
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 庶務・総務関係
①第7回理事会議事録（案）
②第16回メール理事会（案）
③賛助会員入会
2) 会計
①全国研修会の補正予算
（①のシステム活用について）
②講演・研修謝金支払い規程案

3) 助産師教育研究研修センター

- ①遊休財産の使途：HP機能構築

4) 教育検討委員会

- ①助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査について

5) 組織強化委員会（国内・国外）

- ①助産師教員キャリアラダー承認制度構築に向けた調査について

6) 会長

- ①望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020の展開（仮）の出版と実践事例の公募について

III 報告事項

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会
①委員会議事録
2) 広報・社会貢献委員会
①広報・社会貢献委員会活動報告
3) 助産師教育研修研究センター委員会
①研究研修センターの教育の進捗状況

2021年度 第9回理事会次第

日 時：2022年2月23日（祭・水）13：00～16：00
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 庶務・総務関係
①第8回理事会議事録（案）
②2021年度地区長会議事録（案）
③第17回メール理事会議事録（案）
第18回メール理事会議事録（案）
④会員入退会
⑤令和4年度事業案
⑥令和4年度総会日程・プログラム
2) 会計
①2022年度収支予算案について
②事務局のWi-Fiルーターの購入
③全国研修会オンライン開催における運営サポート（委託業者）
3) 助産師教育研究研修センター
①遊休財産の使途：HP機能構築
4) 将来構想委員会
①将来構想委員会次年度計画及び予算案
5) 組織強化委員会（国内・国外）
①助産師教員キャリアラダー認証制度構築に向けた調査
②令和4年度組織強化委員会予算・活動計画
6) 会長
①第63回日本母性衛生学会交流集会について
②望ましい助産師教育の実践例の募集について
7) 資格・専門能力委員会
①令和4年度助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進事業に関する活動計画（案）

III 報告事項

- 1) 教育検討委員会（推進・評価）
①モデルカリキュラム作成について（経過報告）
②助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査について（経過報告）
2) 広報・社会貢献委員会
①広報・社会貢献委員会報告について
3) 将来構想委員会
①将来構想委員会研修会報告について
4) 助産師教育研修研究センター委員会
①研究研修センターの教育の進捗状況について
5) 令和3年度助産師国家試験についての受験状況調査

2021年度 第10回理事会議事次第

日 時：2022年3月26日（土）13：00～16：00
場 所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）
出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美

小川久貴子、崎崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子
陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

1) 庶務・総務関係

①第9回理事会議事録（案）について

②会員入退会について

③総会日程・プログラムについて

2) 会計

①2022年度収支予算案について

3) 教育検討委員会

①助産師教育開始時における助産師学生の看護技術到達度および実習状況に関する実態調査

4) 組織強化委員会（国内・国外）

①2021年度全国助産師教育協議会活動マップ及び2022年度全国助産師教育協議会活動マップ

5) 会長

①日本助産評価機構様からの次期役員・評議員の推薦

III 報告事項

1) 助産師教育研究研修センター

①助産師教育センター議事録について

2) 教育検討委員会（推進・評価）

①モデルカリキュラム作成について（経過報告）

②助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（経過報告）

3) 広報・社会貢献委員会

①広報・社会貢献委員会報告について

4) 資格・専門能力委員会

①助産師国家試験プール問題作成・登録協力員推薦の依頼文の確認について

5) 助産師教育研修研究センター委員会

①研究研修センターの教育の進捗状況について

IV その他

1) 庶務・総務

①地区研修会における非会員の参加費徴収方法について

2) 後援依頼

2022年度 第1回理事会次第

日 時：2022年5月14日（土）13：00～16：10

場 所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）

出席理事：村上 明美、渡邊 浩子、葉久 真理、入山 茂美
小川久貴子、崎崎奈津子、近藤 良子、高田 昌代
永松 美雪（9名/9名）

出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）

出席幹事：青柳 優子、藤井 宏子

陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I 会長挨拶

II 審議事項

1) 庶務・総務関係

①第10回理事会議事録（案）

②第19回メール理事会（案）

第1回メール理事会（案）

③正会員入退会・個人会員入会

④2022年第13回社員総会総会プログラム（案）
委員会・地区活動等報告書確認

2) 会計

①2021年度決算及び監査報告

②2022年度収支予算書

③講師謝金新基準HP掲載有無検討

III 報告事項

1) 助産師教育研修センター運営委員会進捗状況

2022年度研修計画と公募状況

2) 教育検討委員会

①助産師教育開始時における助産学生の看護技術到達度および実習状況に関する実態調査（経過報告）

②総会発表「助産師教育卒業（修了）時の到達自己評価の推移からみるコロナ禍の影響」について 助産師教育研修研究センター委員会

3) 広報社会貢献委員会

①2022年度助産師学生交流会開催方法の検討

②HPトップページの写真変更・PWの変更

4) 資格・専門能力委員会

助産師国家試験プール問題作成・登録協力員報告

5) 庶務・総務報告

①4/15自民党看護問題対策議員連盟へ要望書提出

②4/26文部科学省、厚生労働省へ要望書提出

6) 2022年度近畿地区研修会の案内

IV その他

1) 庶務総務

①他団体からの案内に関するHPへの掲載

②個人会員の入会時期

2) 助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験問題作成のトライアル試験への協力依頼

3) 将来構想委員会

新委員候補者選定について

4) 組織強化委員会（国内・国外）

助産師教育キャリアラダー認証制度構築に向けた調査進捗状況

5) 理事会・地区長会の年間スケジュール案

編 集 後 記

新型コロナウイルス感染症は、現在も新たな変異株が流行し収束の兆しが見えない状況が続いていますが、助産師教育は遠隔授業・シミュレーション教育を導入した新たな教育体制で助産師の育成に努めているところです。このような中、今年度も多くの先生方に御尽力賜り、NEWS LETTER No.94を発刊することができましたことに感謝申し上げます。

「妊産婦のメンタルヘルス」は、新型コロナウイルス感染症パンデミック下では、社会活動や外出の自粛が強いられた心理的ストレス、経済的不況による不安等の影響により増加傾向にあります。“ウイズコロナ”、“アフターコロナ”時代こそ、妊産婦のメンタルヘルス支援に取り組む活動が求められています。社会的ニーズに応える助産活動を発展させるためには、新たな教育体制・研究活動が問われているのではないのでしょうか。

今度もこのニュースレターを通じて、会員の先生方と共に助産師教育の質の向上を目指し、教育・研究活動が飛躍されることを願う所存でございます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

望月千夏子（帝京大学 助産学専攻科）

井上 明子（愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科）

北村万由美（広島国際大学 助産学専攻科）

坂田 清美（帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科）

近藤 良子（日本赤十字社助産師学校）

●助産師教育 NEWS LETTER No.94

2022年10月1日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局

Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)

会長 村上 明美

〒160-0003

東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号

TEL 03-6384-2075 FAX 03-6384-2076

（火・木・金 事務局在室）

<http://www.zenjomid.org/>

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

※事務局は令和2年2月1日に
移転しました。

全国助産師
教育協議会
QRコード



<http://www.zenjomid.org/>
バーコードリーダーで読み取ってください